

















昔、この国では毎年決まった月の決まった日に、ある勝負が行われていました。

その日になると鬼達が現れて、村を占拠してしまいます。それを人間側の代表が取り戻すのです。そして、この勝負に勝った者が地表に住む権利を得ることが出来るのです。

この勝負は昔よりさらに昔から続いていて、次の勝負で九九戦目になります。
ここまでの勝敗は四九勝四九敗。いつまで経っても勝負が付かないとみた鬼達と人間達は、次の九九戦目で決着を付けることにしました。そしてその最後の戦いが明日、二月三日なのです。



紫乃 「・・・とうとう明日ですねえ」
あやめ 「そうね」
紫乃 「はあ・・・」
あやめ 「どうしたの？元氣ないわね」
紫乃 「だってえ・・・、どうしても私なんですか？」
あやめ 「そうよ紫乃ちゃん、あなたなのよどうしても」



紫乃 「去年行ったおみっちゃんは、最初に会った妖怪
にやられて全治一ヶ月だったらしいじゃないで
すか」
あやめ 「そうだったかしらねえ」
紫乃 「とぼけないで下さいよお」



紫乃 「それにしてもお師匠さま、なんで『鬼と戦える権』なんて当てて来るんですか。しかもよりによって私の名前で！自分の名前で申し込めばよかったじゃないですか」

あやめ 「いいじゃない。それに二〇歳以下じゃないと申し込めないのは紫乃ちゃんも知ってるでしょ。



わたし二五歳だから申し込めないもの。大丈夫、あなたはもう立派な妖怪退治人よ。なんとかなるわ！

紫乃 「・・・見栄を張りたかっただけなんですネ・・・
・若い子に混ざって・・・」

あやめ 「うっ」



紫乃 「図星ですね・・・」
あやめ 「ちっ、ちがうわよ。あなたのためを思って、いい修行になるかなあって」
紫乃 「それになんでも、今回の戦いが最終戦って決まったらしいじゃないですか」
あやめ 「そ、そうらしいわねえ」



紫乃 「私はまだお札を使わないと妖怪が倒せないんですよ！お師匠さまみたいに気合いだけじゃ倒せないんです！」

あやめ 「あっ、あら？そうだったかしら？」

紫乃 「・・・はあ」



あやめ 「そうそう、紫乃ちゃんは今回の相手をまだ知らないでしょ？」

紫乃 「えっ？あ、はい」

あやめ 「今回の相手はねえ、鬼の女王の三姉妹らしいわよ」

紫乃 「えええっ！」



あやめ 「手強そうね。今回が最後だけあって鬼達も本気
ね。よかったわあ、戦うのが私じゃなくって」
紫乃 「おっ師匠さまああ、これで死んだら化けて出ま
すからねええ」
あやめ 「そのときは気合い一発成仏させてあげるわ」
紫乃 「・・・絶対化けて出てやるう・・・ツツツ」



紫乃 「ええいしかたない！今更どうのこうの言っても
始まらないし、気合い入れていきますか！」



あやめ 「その意気よ、紫乃ちゃん！そうだわ！今夜は御
馳走にしましょ！ねっ！」
紫乃 「やったあ！お師匠さま、有り難うございます」



あやめ 「最後の晩餐になるかもしれないものね」
紫乃 「・・・もういいです、なんでも」















巫女さんふあいと



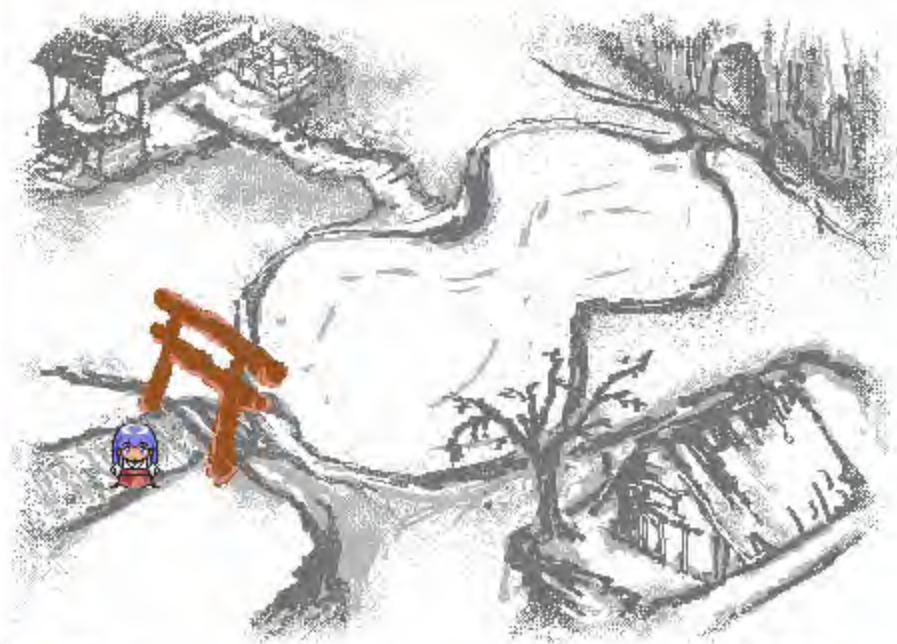
1996 Mush room

続きから



最初から

取り消し



四人

神社 (記録)



四人

千年寺



紫乃「はあ・・・こんな事になるんだったらもっと普通の職業に就けばよかったなあ。峠の茶屋の求人、悪い話じゃなかったしなあ。後悔先に立たず、か・・・」



紫乃「さあてと、お師匠さまのくれた攻略巻物を、と。
なにになにい？」



—千年寺攻略法—

千年寺は敵の数よりお札の枚数が少ないわ。でも、倒さなくていい敵が沢山いるからガンガン進んで可ね。面構成がほとんど一本道状態だから楽かも。それじゃ頑張ってね。・・・死なぬよう。



紫乃「なっ、なんなの!？」



.....パ°お°お°お°お°お°お°お°お°

亜鬼「あなたねえ？ママが言ってた亜鬼と遊んでくれる
子ってえ」

紫乃「あ、あなたは？」

亜鬼「あたしい？あたし亜鬼。あなたのお名前は？」

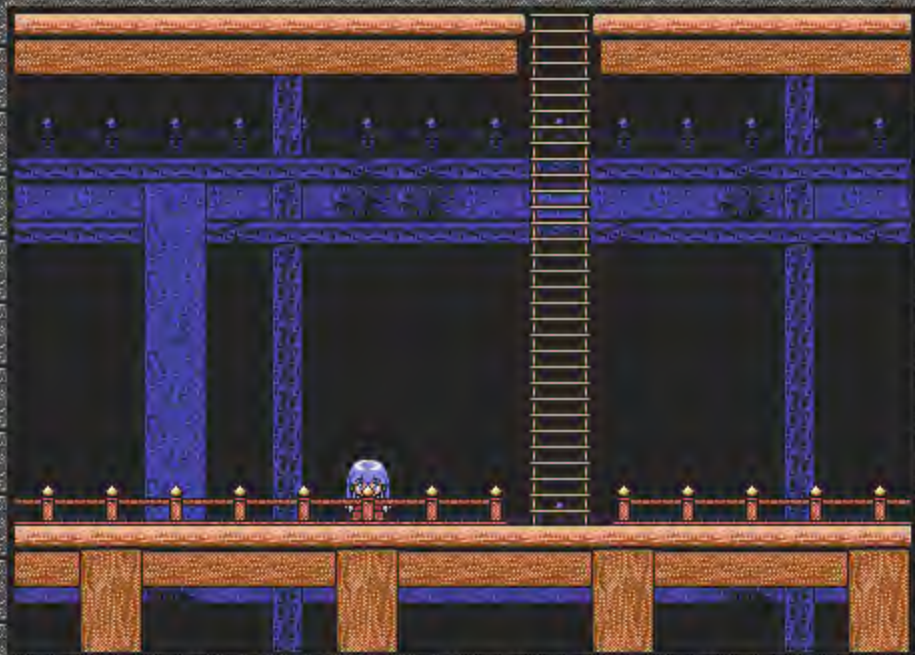
紫乃「紫乃」

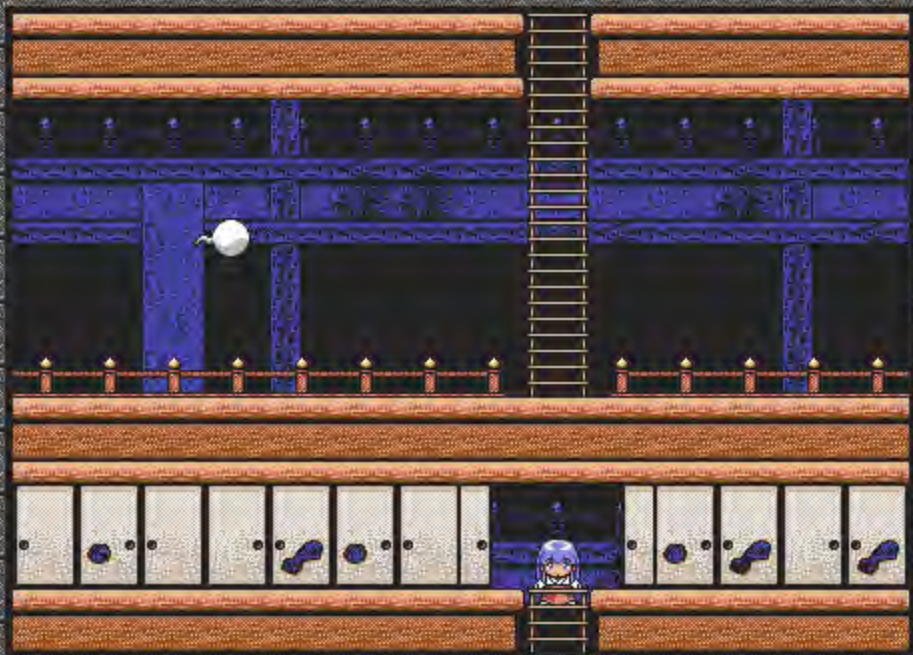


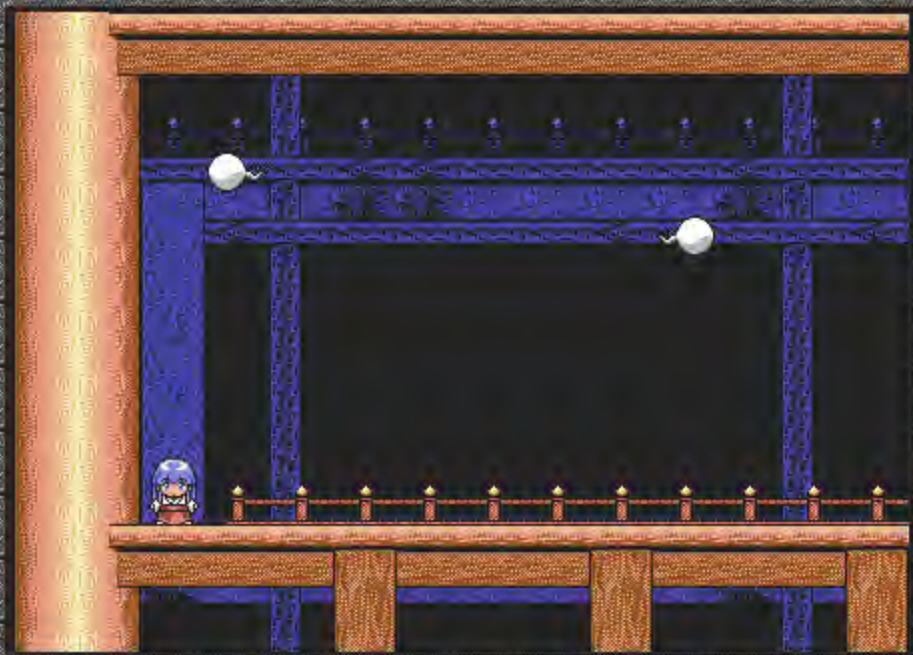
亜鬼「ふううん、紫乃ちゃんっていうんだあ。かあい
いお名前ねえ」

紫乃「あ、ありがと・・・」

亜鬼「それじゃあ紫乃ちゃん、亜鬼は奥のお部屋で待つ
てるからあ、ガンバって遊びにきてねえ。途中で
死んじゃあだめだよお」

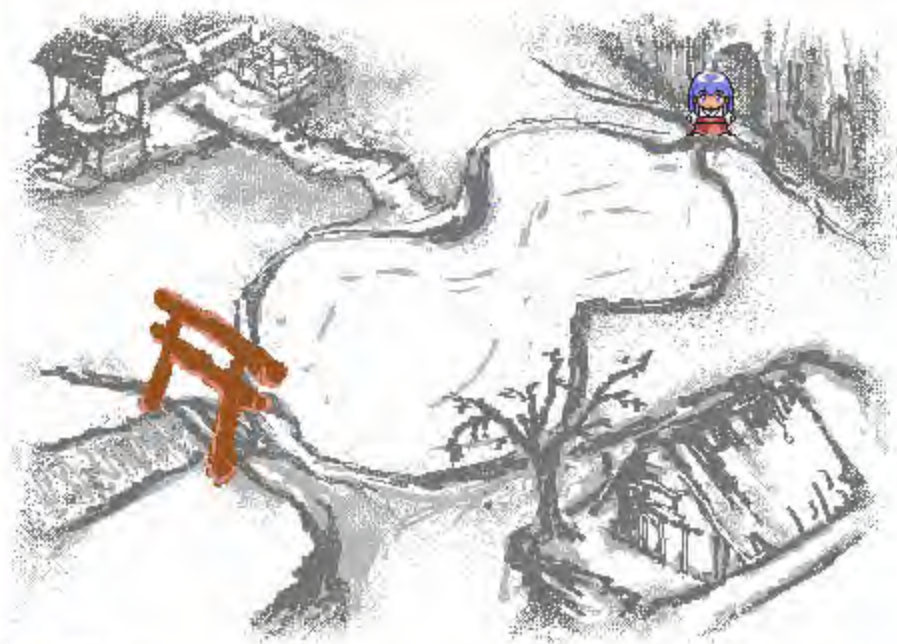






四





四人

北の洞窟



紫乃「まずは攻略巻物を読みなさい」



—北の洞窟攻略法—

敵の数とお札の数は同じね。
面構成はあちこち行かなきゃならないからちょっと面倒かも。マップを参考にしてまだ行ってない場所に向かうのが吉ね。
落ちついて行けば大丈夫。・・・めげぬよう。



紫乃「たいへんそうだなあ」



麻鬼 「みんな聞けえ！いまここに敵が近づきつつあ
る！私たちがこの勝負で負けるわけにはいかな
い。いいか！全員気合いをいれろっ！いくぞっ
！エイエイオーツ！」

妖怪達 「エイオーツ！」

麻鬼 「だめだめえっ！声が小さあいっ！もういちどお♥



妖怪達 「っ！エイエイオーツ！」
麻鬼 「エイエイオーツ！」
妖怪達 「よおしっ！いいぞおっ！人間なんかぶっとばせ
え！」
麻鬼 「ぶっとばせえ！」
妖怪達 「うおいっスウ！」



妖怪達「オーツ！」
麻鬼「声がちいさあいっ！もういちどおっ！って、アレ？」



いいおっ! いいおっ!

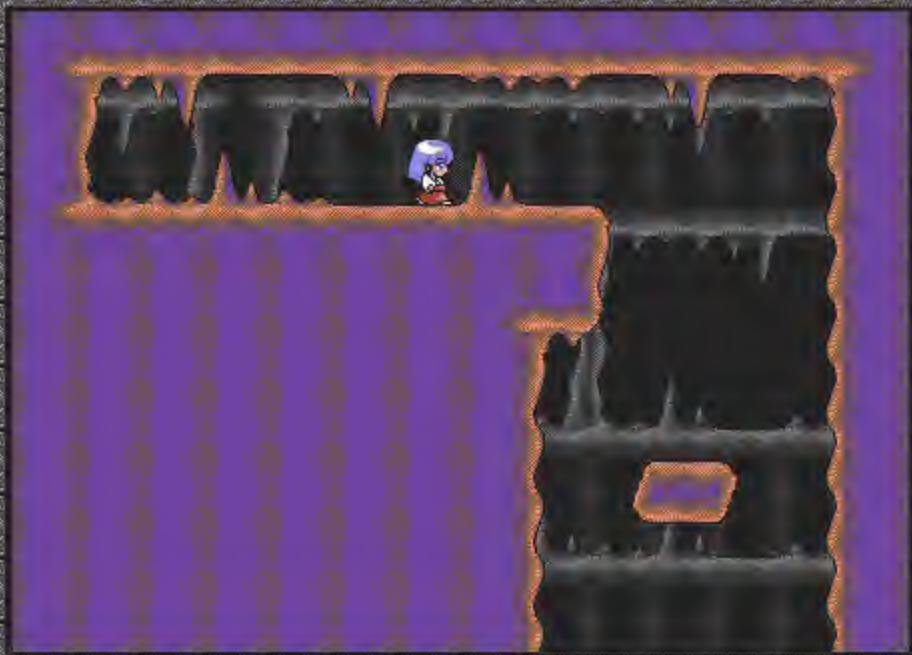
紫乃「・・・何か聞こえるような・・・」

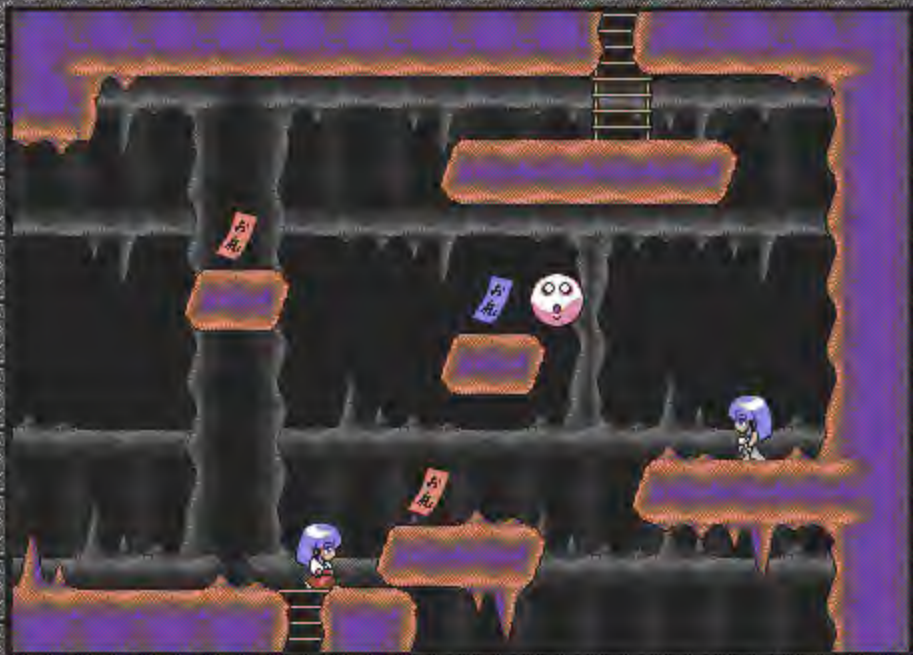
コテッ!

紫乃「あいたっ! もお!・・・はあ、お師匠さまがクジ
きあてなきやこんな所でコケることもなかったの
かあ・・・」



紫乃「お師匠さま今頃何してるかなあ、私がコケたことも知らないで『どお〜なってるの?!』とか観てるのかなあ・・・なんか泣きたくなくてきちゃった・・・ツツツ」







 四人

庄屋さん家



紫乃「おっきなお屋敷。私の実家とは比べものにならないな」

カコーン!

紫乃「鹿威し(シホダシ)か。鹿には効いても鬼には効かないんだ、勉強になるわ」

カコーン!



紫乃「それにしても、日頃から贅沢してるから鬼に占拠されたりすんのよ。いっちょまえに柿の木なんか植えちゃってさあ。悔しいから取り返すのやめちやおうかなあ」

カツコオーンツ！

紫乃「はいはい、行けばいいんでしょいけば！たぐう」



紫乃「さてと、まずはお師匠さまの攻略巻物を見ると
しますか」



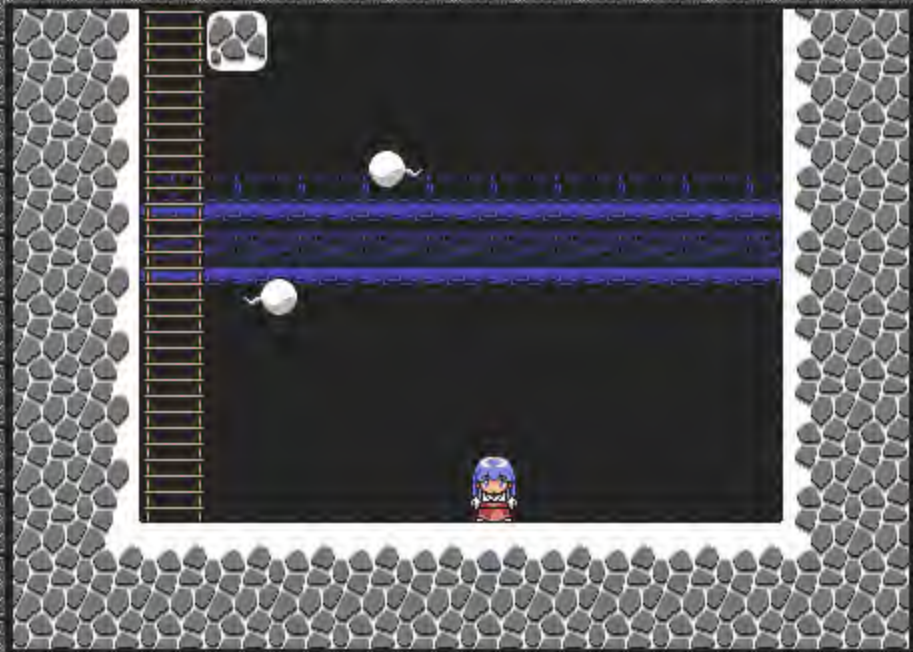
— 庄屋さん家攻略法 —
敵の数とお札の枚数はほぼいっしょね。けど、人魂を
倒すお札はないから。
建物の構成は結構ややこしいかも。
この面のボスは分身できるから気を付けて。
分身は全部倒して良。・・・なんとかなるでしょ。

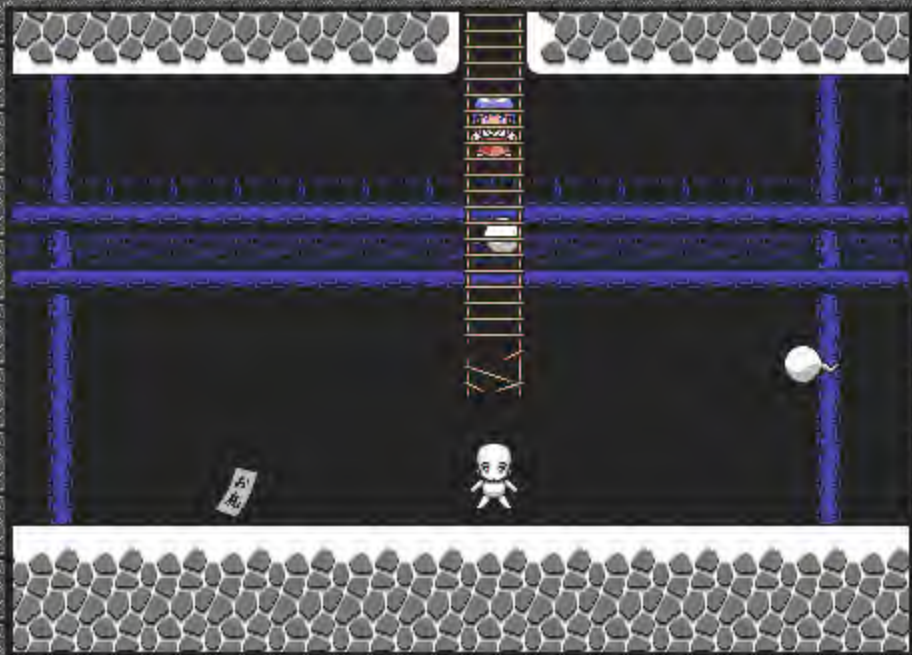


紫乃「ここで人生終わるかも・・・」



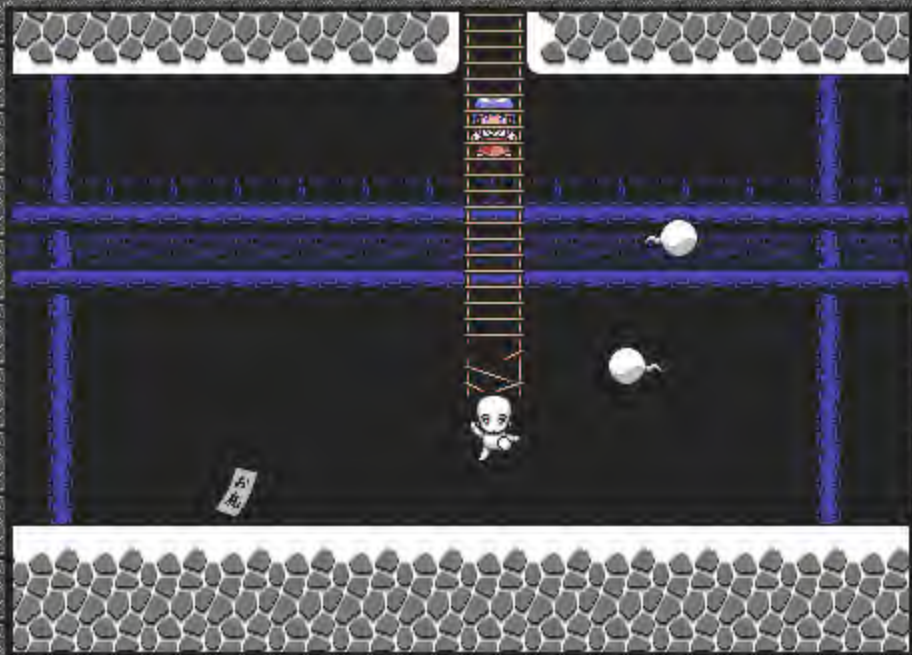
美鬼「あらいやだ、もういらっしやったみたい。みなさ
あん、**郑重**にお迎えしてくださいねえ」
骸骨「ききいっ！」
美鬼「さあてと、忙しくなるわねえ」





四





無念...



—STAFF—



ミュージック

亀田 桂一

SOMETIME

柴田 崇



プログラム・シナリオ

五十嵐 宏樹



メイングラフィック

小林 亨



サブグラフィック

彦平

P-Taro



スペシャルサンクス

中山 朋久

五十嵐 潤

池田 弘大

品川 貴博

稲垣 道康

斎藤 渉

本間 宏之

AND YOU...



